

## シンガポールにおける資料収集と留学案内

戸田賢治\*

本稿では、シンガポールにおける主な資料所蔵機関として、シンガポール国立大学(National University of Singapore、以下 NUS)中央図書館(Central Library)と国立図書館(National Library)の利用・アクセス方法について紹介する。またシンガポールに長期滞在し資料収集する場合や留学する場合に関して NUS への留学手続きを中心に査証手続きも含めて案内する。

### 1. 資料所蔵機関の利用方法

#### (1)NUS 中央図書館

NUS は後述するように、シンガポール大学と南洋大学とが合併して成立した大学で、英語と華語の文献を豊富に所蔵する中央図書館と華語図書館(Chinese Library)がある。現在、両図書館は併設され館内の行き来が自由にできる。中央図書館にはシンガポール、マレーシアを中心とした植民地期から独立・国家建設期、そして現在に至るまでの発展の軌跡をさまざまな角度からたどることができる文献資料を集めたシンガポール - マレーシア・コレクション(Singapore-Malaysia Collection)がある。また、英領マラヤの時代に海峡植民地(シンガポール・ペナン・マラッカ)で発行された新聞や雑誌などの資料はほとんどマイクロフィルムの形で保存されており、その所蔵数は英語と華語ともに多い。NUS の図書館すべての資料を統合した検索リンク(<http://linc.nus.edu.sg>)を利用すれば、インタ

ーネットで簡単に資料を検索することができる。

中央図書館は、NUS の学生やスタッフだけでなく多くの人ができるように開かれている。部外者でもパスポートなど身分証明書を持参し、中央図書館の入り口に設置されているインフォメーション・カウンターで簡単な書類(Temporary Reader's Permit)を作成すれば、資料の館内閲覧が数日間可能となる(電子メディアの利用を除く)。ただし図書館を長期間利用したい場合は、事前にコンタクトをとる必要がある([membership@nus.edu.sg](mailto:membership@nus.edu.sg))。学期期間は祝日以外開館しており、月～金曜日は午前 8 時～午後 10 時、土・日曜日は午前 9 時半～午後 4 時半である。長期休暇期間は日曜日と祝日以外開館しており、月～金曜日は 8 時半～午後 7 時、土曜日は午前 8 時半～午後 5 時である。

#### (2)国立図書館(National Library)

2005 年 6 月、シンガポール国立図書館はピクトリア通りにて地上 16 階地下 3 階の巨大な白亜の建造物として新しく生まれ変わった。これまでスタンフォード通りにあった旧国立図書館の 5 倍以上の大きさである。この大型図書館は、7 階から 13 階までを占める李光前閲覧図書館(Lee Kong Chian Reference Library)<sup>1</sup>と、通路を

\* 一橋大学大学院言語社会研究科博士課程

<sup>1</sup> 有力な華人指導者であった李光前(1893-1967)は、1952 年にシンガポールや周辺地域における教育や

挟んで反対側に位置する展示・イベントスペースの2つのメイン・ブロックで構成されている。そのほか、本やDVDなどの貸し出しをする図書館が地下1階にあり、さらには演劇や演奏会に使うことができるドラマシアターが3階から6階にわたって設置されている。

地下1階の図書館で資料の館外貸出しを請求する場合は登録と会員証の作成が必要で、費用(合計21ドル)が発生する。一方、研究書や資料を多く所蔵する李光前閲覧図書館のみを利用する場合は、基本的に登録の必要はない。それはこの閲覧図書館がシンガポールとその周辺地域を研究する専門家や学生に利用されることを期待しており、シンガポール人だけでなく海外からの研究者の利用を歓迎しているからである。閲覧図書館の各階の内容を概観すると、以下のようになっている。

- 7階 人文・社会科学、科学技術関連のコレクション
- 8階 美術とビジネス関連のコレクション
- 9階 華語・マレー語・タミル語文献のコレクション
- 10階 寄贈された資料のコレクション
- 11階・12階 シンガポール・東南アジア関連のコレクション
- 13階 貴重な資料のコレクション

---

福祉などの公的事業を支援するために李財団を結成。1953年に旧国立図書館の建設のために37万5千ドルを寄金したり、1961年には資料の充実を図るために11万ドルを提供したりしてきた。今回の新国立図書館建設に際しては6千万ドルを寄金して多大な貢献をしている。この閲覧図書館はこれらの献身的な行為を顕彰するために名づけられている。

この図書館はあくまでも閲覧専用であるため資料の貸し出しをしてないが、コピーは自由に行える。コピーの料金は1枚5セント(A4)で、マイクロフィルムからのコピーは1枚60セント(A4)または90セント(A3)である。なお、館内の資料は<http://www.nlb.gov.sg>で検索できる上、登録者であれば資料利用の予約ができる。休館日は祝日のみで、それ以外は毎日午前10時から午後9時まで開館している。国立図書館へのアクセスは、電車(MRT)ならばシティ・ホールとブギスが最寄り駅となるが、両駅の間中に位置しているため、どちらの駅からも徒歩で5分くらいかかる。バスを利用する場合は、路線が多く各地から使えるので便利だが、遠距離からのアクセスには時間がかかるためMRTのほうが便利である。SBS Transitのバスは2、7、12、32、33、51、56、61、63、80、100、133、145、197、C3が、TIBSバスは520、851、960、980、NR7、NR8が利用可能である。

ちなみに図書館のすぐ隣には、華語の書物を扱う書店がシンガポールで一番集中しているブラスバサー・コンプレックス(Bras Basah Complex)があり、関心のある人には都合のよい環境である。

## 2. NUS 留学案内

NUSは、人文・社会科学から法律、ビジネス、機械工学、医学など広範な研究領域をカバーする総合大学である。大学に在籍して研究や資料収集を行う場合には、学部・大学院の正課生となるか、または交換留学・私費留学の非正課生

(Non-graduating student)となるかの 2 つの方法が基本となるが、語学コースとして特設されている華語集中学習プログラム (Intensive Mandarin Programme)に参加するという方法もある。ただし、学部を除いた大学院(修士課程)と留学のコースには、授業を中心に構成されたコースワーク(Coursework)と、研究・フィールドワークや資料収集などを目的とするリサーチ (Research)の 2 つのプログラムがあり、授業の形態や奨学金の有無、学費に大きな違いがある。

#### (1)大学院(修士課程・博士課程)

NUS の大学院の入学申請は、各学部 directly に掛け合って手続きをすることになる。その一例として人文・社会学部大学院を参考にして説明する。この学部の大学院は、現在 12 学科と 3 プログラムの 15 の専門研究科で構成されており、それぞれの専門研究科で直接入学申請手続きを行う。ただし、修士課程には前に触れたように授業を中心に構成されたコースワークと研究・フィールドワークなどを目的とするリサーチの 2 つのプログラムがある。両者の大きな違いは、リサーチ・プログラムでは従来の修士課程と同じように修士論文の作成を修了要件としている一方、コースワーク・プログラムでは分野の特性や要請すべき能力に応じて論文作成を必須要件としていないことである。さらに、リサーチ・プログラムに申請する人は充実した奨学金への応募資格を有し、願書に簡単なチェックを入れるだけで申請できることも大きな違いである。また博士課程に

はリサーチ・プログラムのみが設置されており、入学申請方法は修士課程のリサーチ・プログラムの入学申請方法と基本的に同じである。

具体的に申請に必要な書類は、<http://www.fas.nus.edu.sg/graduate> からダウンロードした願書、研究計画書、推薦書 2 通(英文)、大学・大学院の成績証明書(英文)、TOEFL または IELTS(International English Language Testing System)のスコアである。必要なスコアは、TOEFL-CBT が 237 点以上、TOEFL-PBT が 580 点以上、IELTS が 6.0 以上である。申請期間は、前期学期(8月)からの入学ならば前年 11 月末が締め切りとなり、後期(1月)からならば前年 5 月末までに申請しなければならない。

#### (2)交換留学・私費留学 (Non-graduating student)

交換留学は留学を希望する本人の所属する大学が NUS と協定を結んでいなければならないため資格者は限定されるが、私費留学は NUS 以外の大学や大学院に所属する者であれば誰でも留学申請ができる。両者の違いは留学手続きを行うのが大学か本人かという点のみであり、いずれも身分としては非正課生となり、受ける扱いは同じである。交換留学は各大学の裁量で手続きが行われているので説明することができないため、ここでは私費留学の方法について説明する。

まず NUS のホームページ<http://www.nus.edu.sg/registrar/prospective/non-graduating>

g.htm から申請用紙をダウンロードしなければならない。それと同時にオンラインでの登録も必要となる。この時、所属する学科や受講科目を選択するのに加え、コースワークとリサーチのいずれのプログラムを選択するのかを決めなくてはならない。

コースワーク・プログラムでフルタイムの学生として就学し、Student Pass(後述)を取得する場合、1 学期あたり最低3科目受講しなければならない。授業の内容はネット上で閲覧できる。申請時の登録はあくまでも仮登録であり、入学後2週間以内に受講科目を変更することができる。なお授業料が割高になることに注意が必要だ。授業料が最も安い人文・社会学部の場合でも、1 学期1科目 1500(シンガポール)ドルである。登録に必須な3科目を登録すると、授業料の合計は4500ドルとなり、日本の諸大学の1 学期の授業料に比べて割高となってしまう。

一方リサーチ・プログラムでは授業の登録は課されておらず、申請した学部学科で特定の指導教官について研究や資料収集を行うことになる。ちなみにこのプログラムの1 学期あたりの学費は、NUSのなかで最も安い人文・社会学部で900ドルとなっている。授業をとることもできるが、授業料はコースワークと同料金である。

申請に必要な書類は、ダウンロードした願書、パスポートのコピー、大学・大学院での成績証明書(英文)、語学能力を示すトフルなどのスコア(CBT250点、PBT600点、スコアの基準値は大学院よりも高く設定されているが、これに満たなくても申請すれば受け入れられる場合が多い)、ま

た NUS で取得した単位を本人の所属する大学で認定してもらう場合は大学からの書類である。これらを郵送して、あとは通知をひたすら待つことになるが、これが入学時期の直前まで続くこともあることを経験上記しておきたい。例年申請の締め切りは、前期学期が5月初めまでであり、後期は10月半ばまでとなっている。

### (3) 華語集中学習プログラム (Intensive Mandarin Programme)

NUSの人文・社会学部には現在9つの言語学習を支援する言語研究センター(Center for Language Studies : <http://www.fas.nus.edu.sg/cls/index.htm>)が設置されている。ここでは華語、インドネシア語、マレー語、タミル語、タイ語、ヴェトナム語、日本語、ドイツ語、フランス語が学べるが、華語に関しては語学留学としてのプログラムが特別に組まれている。それは、NUSが1980年8月にシンガポール大学(University of Singapore)と華語を教授できるシステムを完備していた南洋大学(Nanyang University)とが合併して誕生した大学であるため、その充実した技術を生かして現代の多様な華語学習のニーズに対応することができたからである。このプログラムは、華語に関心をもつ海外の学生やビジネスマンなどを対象とした初級・中級コースとビジネスやアカデミックの分野などに適応する高い運用能力を養成する上級コースを用意している。各コースともに3ヵ月間(土日以外の週5日間)を集中学習期間としており、1年に3回(1月、4月、8月)入学の機会がある。また

単位制であるため、必要な単位を満たすと卒業証書がもらえる。さらに在籍期間には、NUS の図書館やコンピューター施設などを自由に利用できる特典がある。

このプログラムの申請に必要な書類は、ダウンロードした申請書とパスポートサイズの写真 2 枚、最終学歴証明書(英文)、パスポートのコピー、そして現地にすでに滞在しており長期滞在ビザを取得している場合はそのコピー(無い場合は以下で説明)となっている。各コースの学費はおよそ 3000 ドルである。

#### (4)住居

華語集中学習プログラムの申請者は大学の寮に住む資格がなく、自分で住居を探す必要があるが、校外の住居情報をオンライン(<http://www.nus.edu.sg/rental>)で入手することができる。それ以外の留学申請者で入寮を希望する場合、ネット上で住宅サービス課(Residential Services)のページを開いてオンライン登録によって手続きをする。多くの留学生が居住する寮は、Prince George's Park Residences である。全て一人部屋であるが、クーラーやシャワーなどの設備の充実度に応じて賃料が異なる 3 種類の部屋が準備されており、選択して自分の希望を提出する。入学の手続きを担当する事務(Registrar's Office)とは独立して運営されており、入寮許可の通知は入学許可の通知とは別にメールで送られてくるので、それをコピーして持参する。

#### (5)入国手続きとビザの申請

6 ヶ月以上シンガポールに滞在し就学する場合は、Student Pass を取得する必要がある。移民局(Immigration & Checkpoint Authority、以下 ICA)が指定する高等教育機関で就学する者は、ICA のオンラインシステム SOLAR (Student's Pass On-Line Application and Registration, <https://www.psi.gov.sg/NASApp/tmf/TMFServlet>)を通じて Student Pass を申請しなければならない。NUS は ICA が指定する高等教育機関に含まれている。

Student Pass の受け取りに必要な書類は、NUS が発行した入学証明書、シンガポールで発行された健康診断書、SOLAR での登録後 ICA から発行された書類のコピー 2 部、パスポートである。これらを学生課(Office of Student Affairs)に提出し、登録料 80 ドルを支払えば、学生課を通じて 2 週間ほどで Student Pass を受け取ることができる。ただし本人が直接 ICA に赴いて申請すれば、当日のうちに発行してもらえる。

就学期間が 6 ヶ月以内の場合、Social Visit Pass を取得し、これを延長して滞在する。日本国籍保持者は観光目的で入国する場合、3 ヶ月以内の滞在であればビザは必要ないが、入国時に許可される滞在期間は 14 ~ 30 日間で、それ以上滞在する場合は延長手続きが必要である。入国時に付与される滞在許可期間は入国経路など入国時の状況によって異なるため、入国時に確認しておいた方がよい。